

地歴・公民科 資料

No. **71**

もくじ

巻頭	韓国で「併合 100 年」を考える／君島 和彦…… 1
シリーズ	韓国の教育問題2 教科書フォーラム『代案教科書 韓国近現代史』を読む／三橋 広夫…………… 6
トピックス	女性差別撤廃条約を高校教育に活かす ／山下 泰子…………… 9
実践記録	高校『倫理』定期考查の自己表現問題 ／兼松 正人…………… 13
図書紹介	…………… 16

巻頭

韓国で「併合 100 年」を考える

ソウル大学校 君島 和彦

(008) 高校日本史A新訂版

(013) 高校日本史B新訂版 執筆者

はじめに

今年 2010 年は、所謂「韓国併合」から 100 年目の年である。では「併合 100 年」とは何なのか。ごく当たり前のようなことの意味を考えてみたい。筆者は昨年韓国で生活し、学生や大学院生と授業をしながら、日韓関係とは何なのかを考えているからである。

ソウルにいと、日本の情報はわずかしが入ってこないが、日本では「併合 100 年」をめぐるいろいろな取り組みが行われているようである。しかし、そのわずかな情報を見ていると、日本的発想での「併合 100 年」と韓国でのそれには差異があるように思える。筆者は「韓国から見た「併合」100 年¹⁾」で、その差異について若干記しておいたが、本稿はその続編である。前掲拙稿では、原稿締め切りの関係で、韓国での「3・1 節」の様子を書いたが、ここではその後の韓国の様子について記してみよう。

1. 「併合 100 年」— 8 月に何があったか

1) 8 月 15 日光復節

「併合 100 年」を言う時に問題となる「併合」条約が調印されたのは、1910 年 8 月 22 日であり、公布・施行されたのは 8 月 29 日である。しかし、この両日とも、韓国政府は特別な行事を行わなかった。「併合 100 年」にあたっての声明も公表しなかった。この両日とその間には、民間団体主体の行事が行われた。

では、8 月に韓国政府は何もしないのかと言えば、そうではない。韓国政府は 8 月 15 日に「光復節」という行事を主催した。「光復節」とは 1945 年に日本の支配から解放されたことを祝う日である。8 月 15 日は日本では「終戦記念日」であるが、韓国では「光復節」であり、中国では「解放記念日」である。これを見ると、日本で、「終戦」というとら

1) 『歴史地理教育』2010 年 8 月号

え方で良いのだろうかと思う。「敗戦」という自覚の乏しさが「併合100年」のとらえ方にも影響を与えているように思う。

今年の「光復節」は、景福宮の正門である「光化門」の修復工事が終わり²⁾、その除幕式を兼ねて、光化門広場³⁾で行われた。筆者はその様子をテレビで見た。会場には2万人以上の招待者が集まる。一般人である我々は、会場の様子を遠い背後からしか見られない。それなら会場がよく見えるテレビを見た方が良く考えたからである。テレビは、KBS1, MBS, SBSの主要3局が同一画像で放送していた。いかに重視される行事であるかが分かる。

KBS1 テレビは、光復節企画「道程100年、跳躍100年」と題する企画名で、式の始まる30分前から放送が始まっていた。式は李明博大統領も出席して9時から始まった。

光化門広場の会場では、国民儀礼⁴⁾に続いて愛国歌斉唱、殉国烈士への黙祷、映像で見る歴史⁵⁾、記念辞の朗読があって、次に独立運動の愛国者7人の表彰があり、建国勲章、愛国章などが大統領からその子孫に授与された。

これらの後に、式の中心になる李明博大統領の慶祝辞があった。李明博大統領は白の韓服を着て、壇上に登場した。

大統領の演説は、韓国のこれからの希望と勇気を語り、光復後の歴史を詳しく述べた。そして「公正な社会」の実現を政策課題とするとも述べた。「敗者が復活できて、勝者が一人勝ちしない社会」というような意味である。さらに今年韓国でG20が開かれることを受けて、21世紀の世界で活躍する韓国をめざすとも述べた。北朝鮮との関係では、勇氣ある対話と経済共通制度を実現し、統一の年のために「統一税」を新設して準備しようと呼びかけた。日本に関しては、菅直人首相の談話を評価した。そして、最後に、歴史を忘れず未来を開く大きな大韓民国を作ろうと語りかけた。

20分にも及ぶ演説で、李明博大統領は、光復後の歴史は語った。だが、その話の中で植民地時代には言及しなかった。この点は日本人にとっては重要である。なぜ大統領は植民地期の歴史を語らなかったのか。

また、大統領が自らの歴史観を語ることの重要さを考えたい。光復後の歴史を詳しく話した。ここには大統領の歴史観が出ているだろう。日本では国民

に首相が自らの歴史観を語りかけることはない。誰かの作った原稿を慎重に読むだけである。

2) 光化門の除幕式

今年の光復節の会場が例年の独立記念館ではなく、光化門広場になった理由は、2006年12月から復元していた光化門の工事が終わったからであろう。

光化門の復元は、近年の景福宮復元工事と関連がある。周知のごとく、景福宮には1925年に朝鮮総督府の庁舎が完成した。景福宮の中心である勤政殿の真正面にである。そして、この庁舎の前に残った光化門は保存・移転⁶⁾された。しかし、1950年に起こった6・25戦争(朝鮮戦争)の時に消失し、朴正熙大統領の時代、1968年に再建された。ハングル文字で光化門と書かれた門は、景福宮の正門として長く存在していた。

1995年、旧朝鮮総督府庁舎は撤去されることになり、8月15日に解体式があり、翌年にはきれいな更地になった。そして、景福宮の復元工事の一環として、勤政殿の前も復元された。この工事が終わって見ると、1968年に建てた光化門は、勤正殿と角度がずれ、位置も真正面ではなかった。北側に11.2m、東側に13.5mずれ、角度も景福宮の中心軸から3.75度曲がっていた。そこで、光化門の復元作業が始まり、解体・発掘、そして再建作業が続き、やっと今年完成したわけである。

2010年8月15日、「光化門」の文字もデジタル復元によって旧来の漢字に変わり、その除幕式が行われた。大きな気球を使って「光化門」の額を隠していたが、光復節の式が終わった直後に、気球を繋ぐ紐が切れ、気球が舞い上がって「光化門」の額が現れた。まず、大統領夫妻、全斗煥、金泳三両前大統領などが入場し、次に式に招待された人々が入

2) 光化門の改修は、「終わった」と言うより、「間に合わせた」という方が良いらしい。工事の責任者の人間文化財の方が、突貫工事のために仕事途中で倒れたりしたそうである。

3) 光化門の前の道路が2008年に改修されて、道路の中央が広い公園になり、光化門広場と言われている。

4) 国民儀礼では国旗に向かって敬礼する。この行事は、いろいろな集会でされる。

5) この映像では1948年以降の韓国の歴史が中心であった。

6) この移転は 柳宗悦などが取り壊しに反対したことをもって実現した。

り、直後に一般に公開された。

筆者は、午後に会場に行ってみた。光化門は沢山の人で入場も困難なほど混雑していた。この場はまさに祭りで、光化門広場まで満員の状態であった。

光復節は、つらい日本の植民地支配を思い出す日ではなく、独立を祝う記念日なのである。人々は明るい顔で、晴れ晴れと休日を楽しんでいる風であった。ここに韓国の顔を見た気がした。

3) 8月のテレビ番組

KBS テレビの「併合 100 年」特集は、土曜日の KBS 歴史スペシャルで「国権侵奪 100 年特別企画・韓国と日本」であった。5 週間の連続企画だったので、全部を見ることはできなかったが、第 3 節「共存」では、倭寇・八万大蔵経・三浦・申淑舟の遺言を取り上げた。第 4 節「変化」では、壬辰倭乱の人骨の発掘から始まり、鉄砲の採用や西洋医学の導入が韓国より日本のほうが早かったことを報じた。そして、最後の第 5 節「対決」では、これまでの前近代史ではなく近代史を扱ったが、日本の倭館占領、征韓論、江華島事件を詳しく取り上げ、以降は直接「併合」にまで飛んでしまった。江華島事件後はきわめて簡略でほんの数分であった。そして、その後の時期は取り上げられなかった。

この連続歴史スペシャルは、「日韓 2000 年の歴史と向き合う」というキャッチフレーズであったが、まさに 2000 年であり、「強制併合 100 年」と言いつつも近代史は簡単にしか扱っていない。併合以前の歴史を重視し、「併合 100 年」を簡略にした特集といえる。ここの韓国的発想を見た気がした。長期の歴史的思考で考えることである。「併合 100 年」といえば、その時期だけをみる日本的発想との差異があるといえよう。侵略される韓国人、強制されるだけの韓国人を描かないという企画である。

8 月 15 日のテレビで近代を詳しく放送したのは、KBS1 夜 9 時のニュースだけだったのではないだろうか。独立記念館、バゴタ公園、西大門独立公園などでの集会の様子を報道し、さらに、1945 年までの侵略の歴史を詳しく取り上げていた。これを政治、経済、文化、スポーツなどの分野ごとに取り上げ、25 分も報道した。ここでは、「日帝」という単語が頻発し、まさに日本の侵略の事実を紹介していた。しかし、これは特別な企画ではなく、一般のニュースでの取り扱いである。

2. 「併合 100 年」とはいつのことか

2010 年は「併合 100 年」の年である。しかし、韓国にとっては「光復（解放）65 年」であり、「6・25 戦争開戦 60 年」であり、「4・19 革命 50 周年記念」の年でもある。つまり、「併合 100 年」とは、1910 年から 100 年目のことを意味しているが、「併合」に「直接」関係する、所謂「植民地」時代は 1945 年までであり、「100 年」の内、残りの 65 年は光復後の時代である。この間に 6・25 戦争があり、李承晩独裁政権の時代や朴正熙などの軍事政権の時代があり、その後の民主化の時期もある。これらも含めて「併合 100 年」を思考しているのが韓国の人々なのかもしれない。

日本での「併合 100 年」の取り組みを見ると、特に歴史関係の雑誌などの「併合 100 年」の特集を見ると、扱っている時代は 1910 年からの「100 年間」ではなく、むしろ日本や韓国の近代化の時代、1870 年代から 1945 年までの 70 年ほどの期間を扱っているものが圧倒的に多いように思う⁷⁾。つまり、対象となっているのは、1910 年までの時期と 1910 年以降の植民地として朝鮮を支配した時期の、侵略の歴史である。

この構成は、侵略した側である日本の発想であるように思う。このような発想の背景には、菅直人首相談話のように、日本の植民地支配に関しては、日韓基本条約締結の際に総て解決しているとして、韓国の人々の要求する謝罪や補償には全く関知しないというあり方への批判がある。いわば、真剣に日韓関係を考える人々の発想でもある。

しかし、「併合 100 年」と言う時、1945 年以降、または大韓民国が樹立された 1948 年以降の時期も「併合 100 年」は含むはずである。この時期への考察、発想が欠落していると思う。韓国では 1945 年以後も重視しており、光復節での李明博大統領の演説でもこの時期の歴史を語っていたのである。

前掲拙稿で取り上げた 3・1 節以降、韓国では 6 月 6 日の顕忠日があった。国家に殉じた人々を追悼する日であるが、主に 6・25 戦争での犠牲者を顕彰する日である。李明博大統領も出席し挨拶した顕忠日の式典もテレビで放映された。私の住んでいる住

7) 韓国にいて、日本の研究雑誌などを十分に見ることが出来ない。その中で『思想』2010 年 1 月号や『歴史学研究』2010 年 6・7 月号などを見ることが出来た。

宅では、管理室からの放送でそれを知らせていた。

KBS1 では、特別企画「韓国戦争」を10回にわたる連続企画で取り上げた。これは3・1節の企画よりも、8月の「併合」に関する企画よりも、大きな企画であった。しかも、その第1編「分断」は、植民地時期から扱い、日本の植民地だったからアメリカとソ連によって分断されたと主張していた。6・25戦争の原因の1つとして植民地支配を見ており、南北分断を植民地支配との関連で考察しているのである。

この時期、KBS1 ではドラマ「戦友」を長期にわたって放映した。6・25戦争を扱った内容で、同じ民族同士の悲惨な戦争をドラマ化したものである。あまりに長期で、途中で日本に帰国したこともあって、全編を見ていないが、6・25戦争開戦60周年の今年、その重要性を訴えた放送であると言えそうである。

今年2010年は、光復（解放）後の歴史を考えるには素材の多い年であって、韓国人の人々はそれらを総合的に見ているように思う。

日本の場合、日本政府の不十分な謝罪などへの責任を自覚する人ほど、朝鮮侵略の責任を考える人ほど、「された」韓国人が考えていることへの発想が希薄なのではないかと考える。日本的発想であり、自国史的発想であるように思う。

3. 研究者などは何をしたか

「併合100年」にあたって、日本でも韓国でも多くの集会があった。残念ながら日本の集会については、いくつかの案内などを見ただけで、様子は分からない。

多くの人々の注目を集めたのは、日本と韓国の研究者などの共同声明「「韓国併合」100年日韓知識人共同声明」であろう。日韓基本条約の解釈では、韓国政府の解釈を受け入れた声明で、韓国では特に注目された。現在では、この立場に立たないと日韓の歴史問題は解決の糸口を見つけれられないということであろう。筆者も署名したが、公表の翌日、大学院生が研究室を訪ねてきて、彼等も声明に賛成である旨の意見を述べて帰った。

韓国では、8月22日から29日の間に、多くの集会があった。これらの1つに「強制併合100年韓日市民大会」があり、東京とソウルで順次開かれた。ソウルでの集会は、市民集会和研究集会が同時に開

催され、市民集会には多くの人々が参集した。特に、大学生や大学院生など、若い世代が会の開催に積極的に参加して運営を担当⁸⁾した。会場も成均館大学、西大門刑務所歴史館、貞洞、南山などで行われ、まさに市民集会として、盛大に行われた。聞くところによれば、豊島公会堂で開かれた日本の集会も盛大であったという。このような市民集会の様子は、先に見たように、テレビでもその一部が報道された。

研究者による研究集会も、実にたくさんあったようである⁹⁾。これらの中で、東北亜歴史財団主催の「1910年韓国強制併合、その歴史と課題」は、多くの研究者を集めた研究集会と言えよう。日程も8月23日から26日まで4日間行われた。報告者・討論者¹⁰⁾を、韓国、日本、中国、ドイツから招待し、報告・討論は同時通訳付きで、どこからの参加者にも理解できるように配慮されていた。

この研究集会に筆者も1日だけ参加した。参加してみて感じたことは、報告者・討論者は、実に十分に準備し、興味深い議論をしているのであるが、参加者が少ないことである。報告者と討論者、さらに会の運営に関わる人を除外すれば、一般参加者が実に少ないのである。その理由は、宣伝をしていないからでないかと思う。筆者は、この研究集会の開催について事前に相談を受けたことがあった。にもかかわらず、会の開催について、一切事前案内を受け取っていない。たまたま数日前に、主催団体の職員の知り合いの人から情報を得て、集会を知った。立派な報告書があり、会の開催を知らせるリーフレットもあるが、それがどこに配られたのか、筆者は知らない。関係者が多いので、会場にはそれなりに人はいるが、報告者と討論者の会になっているとしか言えない。実にもったいないとしか言いようがない。韓国の研究集会はこのようなケース¹¹⁾が多い。以前からその問題点を、韓国の知人に話しているが、一向に改まらない。

8) このことは、会の運営に参加した大学院生からの聞き取りによる。

9) 「ようである」という不確かな表現にしたのは、筆者の知ることのできなかった会もあったことと思うからである。

10) 韓国での研究会では、事前に報告論文を読んで批判する人を準備している。この人を討論者という。

11) ある博物館の特別展の開会式の案内をその翌日に郵便で受け取ったこともある。このようなケースは多い。ソウル大の研究集会を事後にメールで知ったこともある。

私の勤務するソウル大でも 27 日に 2 つの集会があった。当然 1 つしか参加できなかった。その 1 つはソウル大の奎章閣で開かれた研究集会で、「第 3 回奎章閣韓国学国際シンポジウム・強制併合・100 年前を顧みる」である。この集会も 8 月 27 日と 28 日の 2 日間行われた。中心になる開会式後の基調講演はソウル大名誉教授の李泰鎮氏と成均館大学の宮島博史氏が行った。宮島氏は日本で行われている「併合 100 年」に関する状況を報告した。筆者には、日本の様子を知るのに大変参考になった。

李泰鎮氏は、報告書にある論文とは随分違った話をした。報告書にある論文は、純宗皇帝の時期の日本と韓国の条約や公文書にある皇帝の署名は偽造されたものであることを実証したものである。

当日の話は、主に、大韓帝国時代の韓国とオランダの関係についてであった。この時期の韓国は、オランダから種々の近代的文物を導入したという内容である。これは示唆的で、日本では、日本と韓国の関係しか目に入らない。しかし、韓国は日本との関係だけで存在したのではない。韓国の近代を日本との関係だけでなく、他の国との関係でも見ないと十分ではないことを示唆していたと思い、新しい視角を見た気がした。

しかし、この会も一般参加者は少なく、しかも李泰鎮氏の報告が終わると多くの人が退席してしまった。この会もほんの数日前にソウル大の校内にポスターが貼られて知ることができた次第である。韓国では集会は報告者たちが学べばよいと考えているのだろうか。多くの人への影響については考慮外なのだろうか。

おわりに

「併合 100 年」の年のソウルでは、政府の主催する光復節と民間団体の開いた大衆的な集会、さらに豊富な資金を使って多くの外国人研究者を招待して開催された研究集会があった。

筆者の関心を引いた研究集会では、報告者や討論者には実に著名人が多かった。それらの人々の報告を聞いたり、報告集の論文を見たりするだけでも、意義のあるものであった。

ここで注目したいのは、韓国と日本の認識の差異である。「併合 100 年」と言う時、対象時期が同じ

ではない。韓国では、古代史から現代史までを「併合 100 年」という視覚でとらえ直そうとしているように見える。日本では近代史だけが対象になっているように見える。この差異は大きなものである。特に日本で「併合 100 年」を取り上げるとき、1945 年以降の事実には思いをはせないのは、光復後は「韓国」の問題であって「日本」とは別ということであろうか。しかし、韓国での把握はそうではないように思う。

このことと関連して、日本では、植民地支配の様々な事実を、現代日本の政治的実情にだけ合わせて強調することになるが、植民地支配をされた側のこと、韓国の自尊心への配慮が十分ではないように思う。

「した」日本と「された」韓国の認識の差異、それぞれの事情の差異、この克服は、研究集会などの企画の最初から考える必要がある。先に見た共同声明では韓国への配慮があった。このような配慮、「された」韓国の自尊心への配慮が重要なように思う。「した」側と「された」側の和解では、「された」側の認識への接近が必要だと思う。ここでは、特に日本では、自国史からの脱却が求められていると言える。「された」韓国は日本との関係だけで存在したのではないのである。

また、「された」側の対応では、ナショナリズムの強調に注意する必要がある。ナショナリズムの強調、韓国は正義で日本は悪という発想は、日本の「つくる会」との反対側にあることになる。彼等と表裏にならないようなナショナリズムが求められよう。「した」側の努力を「された」側が確認し、接近方法を模索することが重要なのだろう。このための対話が今後の課題であろう。

これらを踏まえて、双方の歴史教科書や歴史教材などを作る努力が求められる。韓国では、2012 年から「東アジア史」という科目が発足する。今は教科書作りが進行中である。このような科目を日本でも作り、さらに中国でもできれば、それらを検討することによって、あるべき「東アジア史」が完成すると思う。このような作業によって、これまで見てきた日韓の発想の差異、歴史認識の差異を埋めていくことができるのだと思う。